

# 「DX 化の促進とビジネスメイク」 ～DX モデル創出補助金 公募説明会～ 実施報告（抄）

開催日：2023 年 4 月 27 日（木）16：00～17：30

場 所：Zoom ウェビナー上でのオンライン開催

共 催：一般財団法人さっぽろ産業振興財団、札幌市イノベーション推進コンソーシアム

後 援：札幌市

参加者：56 名

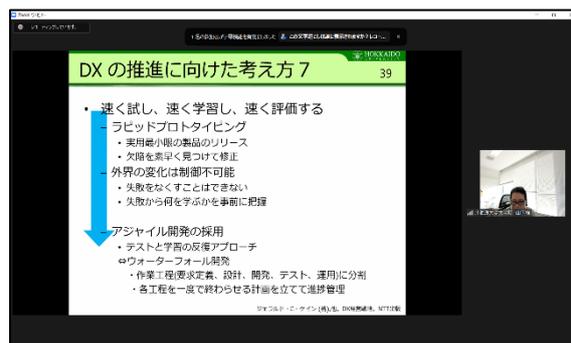
プログラムと内容概略（以下、敬称略）

## 1 開会挨拶



一般財団法人さっぽろ産業振興財団 IT 産業振興部長 村椿 浩基

## 2 【基調講演】「DX 化の促進とビジネスメイク」



北海道大学大学院情報科学研究院 情報理工学部門 複合情報工学分野  
調和系工学研究室 准教授 山下 倫央

### ●講演にあたり

DX の抽象論ではなく、山下氏の研究室で取り組んでいる研究題材（企業の課題）を、この補助金に申請する想定でポイントをお話しいただいた（あくまで山下氏個人の私案のため、採択を保証するものではありません）。

## ●ポイントは「データ、システム開発と体制構築、適用先」

### (1) データ

ゼロからのデータ収集は時間的に難しい。既にデータがある程度蓄積されていて、今後もデータが増える見込みがある等、これまでのデータと最新のデータで検証したい。

### (2) システム開発と体制構築

限られた事業期間（約半年間）の中で、ゼロからのシステム開発は時間的に難しい。PoCを終えたシステムのブラッシュアップで活用したい。

### (3) 適用先

札幌市が「DXモデルの事例」として宣伝できるよう、分かりやすい事業だと尚良い。

## ●DXの重要概念（2019年に経済産業省が定めたDXの定義が、本補助金の概念に近い）

企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること。

## ●DX推進に向けた考え方

(1) 異なる特徴を持った問題の、解決する目的や意味を明確化し、全てが1つの方法で解決できる方法を考える。

(2) アジャイル開発（速く試し、速く学習し、速く評価する）の採用。1回で100の成果を挙げることは難しくても、1の成果を素早100回積み重ねて、100以上の成果を挙げることで、製品・サービスの価値を上げるDXとなる。

## ●DXの推進に向けて

DXの手始めに取るべき行動は以下の2つ。

- ① 最新の技術動向に触れつづけ、情報源を増やし続ける。
- ② 仲間を見つける、既に活動している人から学ぶ。

## ●上記の観点を踏まえ、山下氏の研究室発の実証事業

### (1) 除雪への出勤判断を支援するシステムの開発

<課題>

- ・道路の除雪業務は深夜帯から早朝にかけて実施する。
- ・除雪作業員の出勤判断はベテラン担当者でも難しく、その判断を下すタイミングは除雪作業の開始直前にならざるをえない。
- ・除雪作業員は除雪作業をしない場合でも出勤に備えなければならず大きな負担となっている。

<解決方法>

- ・除雪作業の出勤決定を支援するシステムを開発
- ・雪見巡回用の固定カメラの画像や気象分析データの利用
- ・マルチモーダルなデータを統合する深層学習の適用

## (2) 灯油タンクに設置したセンサデータで残量を推定するシステムの開発

### <課題>

- ・各家庭の灯油タンクの残量がわからないため、灯油使用量にかかわらず一定のペースでの配送が必要
- ・残量が多いタンクへの給油（無駄な配送）、空のタンクへ給油（イレギュラーな配送）が発生し、コスト削減・労働環境の改善が課題

### <解決方法>

- ・各戸の灯油残量をシステム上で確認できるため、最適な量の灯油を最適なルートで運ぶことができ、配送コストや業務負担が大きく軽減

## 3 DXモデル創出補助金 採択事例発表

### 「スイーツ王国さっぽろ」顧客・お店・従業員のリレーションアプリの開発



株式会社メディア・マジック 取締役第2開発部長 樋原 猛己 氏

### ●プロジェクトの概要

- ・市内洋菓子店が加盟する会員組織「スイーツ王国さっぽろ」のスマートフォンアプリを開発し、スイーツ王国さっぽろ推進協議会様、および各会員店（洋菓子店）のDXを推進する。

### ●クライアントの現状、ニーズ

- ・スイーツ王国：各店の売上増のための施策を提供したい。会員向けサービスを充実させ、（特に若手パティシエの）技術向上、人材確保につなげたい。
- ・洋菓子店：来店客、購買単価を増やしたい。従業員の育成、雇用を維持したい。

### ●本プロジェクトでのDXプロセス

- ・協議会および会員店における「導入しやすさ」と「具体的な効果の期待」を鑑み、「顧客情報、会員カード等の電子化」と「店舗専用アプリの導入」の顧客向け施策に焦点を当てて実施（開発した具体的な機能）  
→共同デジタルスタンプカード、クーポン：お店間で共同利用でき、利用客のリピート来店、

- 他店への回遊を促す。「来客数 UP × 購入単価 UP」による売上増
- 各店からの情報発信を行う CMS（コンテンツ管理システム）：各店の新商品情報やセール情報などを発信
- 会員限定コンテンツの配信（基盤の提供）：パティシエが利用可能なレシピ情報、オンライン講習会映像等
- ※将来の整備事項として、「購買行動ビッグデータを活用した販売改善」等もロードマップ化

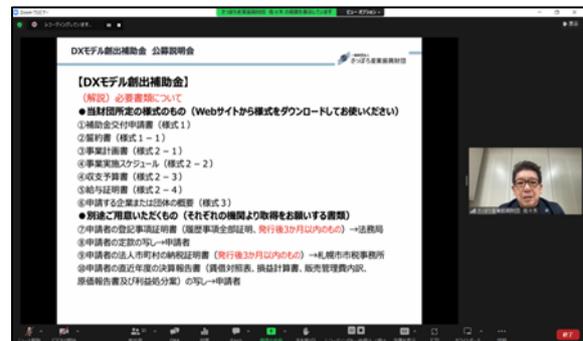
### ●事業の新規性、独自性

- ・洋菓子協会の店舗間で活用するアプリ」は、全国でも例が無い取組
- 洋菓子業界における北海道、札幌の優位性、先進性の向上
- 類似の他業種、他地域への波及効果も期待

### ●DX の期待効果

- ・スケールメリットの高い O2O プロモーション
- 札幌市内の複数店舗が集まったメディア、「スイーツ王国」ブランドでの訴求
- ・各店の IT リテラシ向上（DX への足掛かり）
- アプリ活用による「IT への苦手意識の払拭」、「IT ツールでの成功体験」

## 4 DX モデル創出補助金 公募説明



一般財団法人さっぽろ産業振興財団 IT・クリエイティブ産業振興部  
IT 産業振興課長 佐々木 諭志

公募説明に先立ち、国内企業における DX 動向を紹介した後、令和 5 年度「DX モデル創出補助金」の公募概要、申請時の注意事項等を説明した。

本補助金の詳細は、札幌市エレクトロニクスセンターの HP（下記 URL）をご覧ください。

<https://www.elecen.jp/project/innovation/it-create/>

以上